



なんでやねん

尼崎市立小園中学校 社会科担任 倉橋 忠



No. 7 - 1 / 4

高齢化社会についてどう考える、どう対処する。君の将来は？

この期末考査で、高齢化社会と自分の将来の生き方について、君たちの意見を求めました。

高齢化社会によって生じる問題を考えるにあたって、多くの人の主要な論点は、老人の生きがいを保障するための老人の職場の確保

(問題) 高齢化社会と将来の自分の生活について、下の語句をすべて使用して(最低条件です)、自分の考えをまとめなさい。(関心・態度)

高齢化社会 男女平等 個人の尊厳
国 家族

の必要性、あるいは老人ホームの無料化や、老人医療問題、生活保護問題、老齢年金制度の問題などでした。

中には、今年から施行された「育児休暇」制度にヒントを得て、有給の「介護休暇」の新設を主張したり、また、ボランティアによるホームヘルパーから制度としてのホームヘルパーへの転換の必要性を主張する意見もありました。

少々話題がずれるのですが、今、新聞をはじめとするマス=コミュニケーションで話題になっている、尼崎市議会の議員によるカラ出張問題や、国会議員の「金」をめぐる事件に注目して、怒りをぶつける意見を書いていた人もいました。

ここに紹介した意見だけではなく、全体的に「国」の責任を迫る傾向の意見が多かったように思います。けれども、国の財政面から考えて、老人福祉にそれほど多くのことを期待するのは無理ではないか(10組 M. M.)という意見もありました。

欲を言えば、「国」に求めるだけではなく、国民の一人として自分は何をするべきか、自分に何ができるのか、という点についてもう少し深く考えてもらいたかったなあー…と先生は思っています。

友だちの意見を参考にして、再び、自分の考えをねりなおして下さい。社会問題に唯一の解決方法はない、といっても過言ではないでしょう。けれども有効な解決方法を考えなくてはなりません。実現可能な方法を。

以下に紹介するのは、いつもの通り、答案の中で主張された君たちの生の意見です(修正していません)。

高齢化社会になっているが、老後、財産のあるものは、いいのだけど、財産をもっていないものは生活が苦しいと思う。しかも、収入が男にくらべ女はすごくすくないので、女の方が不利だ。今の社会は男女平等といっているわりには、そこどころがちゃんとなっていない。だから、もっと個人を尊敬し、いちはやく、もっとこまかい所まで男女平等になることを願っている。ぼくは、老後、息子の家族などに世話になりたくない。そのためには国がもっと考えもらわないとだめだと思う。ぼくの考えは、労働銀行というものをつくったらどうかと思う。労働銀行とは保険とよくにているが、若いころ、老人たちの世話などいろいろなしせつに寄付をしたりしてがんばり、そのがんばった分、老後、こんどは若い人に世話されるというようなものです。そうやったら、老人と若者のコミュニケーションもとれ平等になると思う。 3年5組 S. K.

将来、自分が65才を過ぎて老人となった時はやはり家族と一しょに過ごしたい。しかし、きっとそれは今の段かいではムズカシイと思う。理由は国が老人の個人の尊厳を十分守れていないからだと思う。今、男女平等とさわがれている中で、男性の育児休かみとめられるようになった。育児休かの制度と同じように”老人かいご制度”というものをつくってもいいと思う。今は高齢化社会だ。だから高齢社会となる前に、老人が過ごしやすくなる環境を国が作っていくのが先決だと思う。格安(10万ぐらいの)の老人ホームも一手だ。 3年5組 M. T.

高齢化社会が問題になっている。身内の老人に介護が必要になった場合、誰がその仕事を行うかという所には、男女平等の問題もからんでくるが、今の日本で、老人が家族と一緒に生活していることは、とても良い事だと僕は思う。そういった点から考えると、誰が世話をするというより、家族全体が愛情といたわりを持って老人を支えてゆけば良いのではないだろうか。また、家庭での介護ができない時は、国や社会で支えていくしかないだろう。福祉国家、スウェーデンなどのように、もっと社会福祉を充実させる必要がある。高齢者一人一人の個人の尊厳や自由を考えるならば、施設の充実よりは「在宅福祉」に力をいれて、老人が住みなれた家にずっと住めるようにするべきだろう。ホームヘルパーを増やす事や、ねたきりの老人のリハビリテーション、働ける老人の職場を増やす事も急務である。高齢化が進めば進むほど、社会はみじめになっていくと思うし、自分もいつか必ず老人になる日が来る。僕たちは、日本が経済的に豊かなうちに少しでも多く、できる限りの施策を行っていかなくてはならない。 3年5組 K. Y.

高齢化社会に向けてたくさん問題があると思う。老人医療の問題、老人の再就職・いきがい、また働く女性の多い中賃金などの女性差別はなくなっておらず、まだまだ男女平等は確立していない。これらの問題は社会的弱者とされる老人と女性の個人の尊厳に関わるもので、これからの日本に重要なことだと思う。

私は、年をとっても何かしたい。だから定年後も元気ではたらく、はたらきたい人たちのための職場をふやし、また国はもっとやすくはいれる老人ホームのような施設をたくさんつくるべきだと思う。でもやっぱり、家族がねたきりの老人などのせわができたなら一番いい。もっと余裕のある社会になればいいと思う。 3年5組 Y. I.

このまま増え続けると2020年には現在の2倍になる。今はひとりっ子が増えているから、一家族(2人)で4人の親の介護をしなければならぬ。それでは家族に負担がかかりすぎる。男女平等といわれているけど、実際はやっぱり男女平等ではなく介護するのは女性が6割を占めている。これから増え続ける老人のために国はもっと考えるべきである。例えば、介護休暇を増やすとか、看護休職している人にも給料を与えるとか、老人のための施設をもっと増やすなど。若い人だって老人のためだけに時間を費やすと、自由がうばわれて個人の尊厳が守られなくなる。高齢化社会に突入していく今からそういう事を踏まえて施設や休暇などの制度はちゃんと決めていた方がいいと思う。

3年5組 R. G.



社会科通信

なんでやねん

尼崎市立小園中学校 社会科担任 倉橋 忠



No. 7 - 2 / 4

これから高齢化社会に入ってくる時代。共働き夫婦の場合、家庭に老人をかかえていると女性が仕事を辞めるか、ヘルパーをつけなければならないので国が老人に安心して暮らせる介護施設を増やして家族の負担を少しでも軽くできればいいと思う。女性も仕事を続けたいのに、介護に当たるために仕事を辞めなければいけない人もでてくるだろうし、これでは個人の尊厳のことを思うと男女平等にはならないのでは…？

もし将来、私が共働きでこういう立場になったなら、老人の介護は夫と2人でやっていくのが理想だけど、生活もかかっているし、現代の状況からいけばそういうわけにはいかないと思う。

3年5組 A. M.

今、子どもの数が減って高齢化社会になってきている。高齢者が増えると要介護の問題もできて、その介護を誰がするかというのも問題になる。夫は今のこの国の労働条件では家事との両立さえできないのに、介護をするなんて、とても無理。男女平等と言うのに結局妻が仕事を辞めて女性がしなくてはならない。男女平等以前に個人の尊厳って言うのかなって思う。男も女も同じように尊重されているようには思えない。だけど誰かはやらなくてはいけないことだし、自分もそうゆう立場になるかもしれない。だから、女性(妻)がやる事、と思わないで、家族が協力してやっていかなければならない事なのだと思う。

私は年をとっても、介護されなくても生活できるように健康な老人になるように心がけたい。

3年5組 R. M.

民主的な家族関係は、男女平等と個人の尊厳にあると思う。とくに高齢化社会において、国や家族は老人への保護と愛情と思いやりを持たなければならないと思う。

例えば、国は、老人でも働ける場や、格安で入れる老人ホームの建設などがある。家族は寝たきり老人の介護などがある。看護も女性だけでなく男性もするべきだと思う。その為には、育児休業と同様に、老人看護休暇などがあればいいと思う。そして、その為には国の経済的な援助が必要だと思う。今、老人は、若い人と別物の様にあつかわれているような気がする。そうならないためには、国や家族の協力が必要だと思う。

3年5組 S. Y.

ぼくは、高齢化社会を守っていくには、福祉に力を入れ国がもっと施設を増やしたり老人のいる家庭に援助金を出せばいいと思う。そうすれば、要介護が楽になり夫も妻も男女平等に家事をし働きに出ることが少しは可能になると思う。老人には人生経験を話す機会をあたえ社会に参加してもらえば、個人の尊厳もなんとかなると思う。しかし、現実には厳しいのでまずは家族でこれらの問題を考えあって将来のことを相談しあうのがいいと思う。ぼくは、老人になって社会から見捨てられるのはいやなので、もっと現実をしってよりよく考えていきたい。

3年6組 K. K.

今は男女平等の世の中と言われていますが、いっばん的にはまだ女性の地位は低い様です。これからの高齢化社会において、女性も社会に出て働くことが多くなると思います。そのためには、まず家族の中で1人1人が自分の役割を作り、互いに助けあわなければならないと思います。個人の尊厳を守るのはたいへんむずかしい事だと思います。国も社会福祉の向上、労働条件の改善をもっと考えてほしいと思います。

3年6組 K. K.

高齢化社会の問題は絶対にさけてとおれない道だと思う。それに今、自分たちが考えていかないと後々、自分が年をとってこまるようになると思う。そして、それを解けつするためには、国だけにたよらず、家族で助けあっていき、そして、男女平等で、二人で分たんして世話をするのが一番よいと思うが、それはほとんどむりだと思う。そのため国は、安い老人ホームをつくり、また、男女の労働時間を短縮したりしなければならないはずだ。また、老人の方からすると、過労死からみられるように仕事を生きがいとしている(中にはそうでない人もいると思うが…)人もいると思うので、個人の尊厳を大切に、老人でも、働ける場が必要になってくると思う。また、心がやすらぐ公園などもたくさんいると思う。

3年6組 K. S.

現代の社会の中で自分達にとって一番身近で大切な問題が高齢化社会について考えていくことと思う。国や地方団体がその人たちの精神を補うものとして活動しているが、まず最初に自分達が考えて行動しなければならぬ。政治の中で男女平等が問題にされるが、ぼくは夫婦生活をしていく中で必ず不平な点がでてくると思う。高齢者の世話や子供のめんどうなど、今の日本社会での労働条件では、夫は家事が両立できない。しかし、妻の権利も考えていきたい。ぼくが高齢者になった時は個人の尊厳をもちたいし、もたしてもらいたい。これからの高齢化社会を平和にくらしていくためには、家族とそのまわりの人達の協力が必要である。

3年6組 Y. F.

どんどんひどくなりつつある高齢化社会において、国がお金のかからない老人ホームをつくらなければならない。それにはまず国民1人1人がよく考えて投票することだ。国民の代表が、私達の願いを主張してくれないと困る。安い老人ホームは不可能でないはずだ。お金しか見ていないような国会議員は選ばないようになりたい。よく、キャリアウーマンとか女性進出ときくけど、女性の賃金は男性の半分だ。外国ではもうちょっと男女平等なのだと思う。こんな状態では、やっぱり老人の世話は妻がしなければならない。女性の国会議員がもっと活躍し、男女平等を実現してほしい。

私が老人になったら、ちほう症や寝たきりにならないように積極的に外に出たりする。高齢化社会とはいえ、元気な人はたくさんいる。そして、老人がじっとしているだけにならないようにすることが家族の義務でもあると思う。そうしたら、個人の尊厳もおかされないとと思う。

3年6組 K. N.

今日本は、高齢化社会をむかえようとしています。ここで私が言いたいことは、今の国の社会福祉のじょうきょうを見ていればまちがいがなく対応しきれないでしょう。でもそれに対応できる社会福祉のじゅうじつをおこなわなければならないのです。これには、まちがいがなく増税などいろいろなめで私たちのふたんになるでしょう。これには、たしょう時間がかかるでしょう。しかし、今私たちが行わなければならない問題は、そればかりではありません。男女平等の問題などがあります。職場の女性は、セクハラなどいやがらせをうけている人々がたくさんいます。子そだての面や家事の面でも男女の差別はなくなっていないのが現状です。女性もけっこんしても働きたいそんな考えをした女性がふえている今、会社のたくじしせつのじゅうじつがなければ女性は安心して仕事ができせん。こうした問題が子供のげんしょうをまねているのだと私は思います。これから向かえる高齢化社会は、4人に一人のわりあいで高齢者が増えていきます。家族は、かくかぞくがふえおとしよりだけのふうふですんでいる所もあるくらいです。大家族のようなあたたかい家族をふつつさせ個人の尊厳を守りながらの看護が今の私たちにできるもっとも重要なことではないでしょうか。私は、こうした制度のもとで老後の生活をしてみたいとつねづね思います。

3年7組 Y. T.

私たちが大人になったころちょうど高齢化社会になっているころだと思う。日本の国には定年退職というものがあって、まだ働ける老人でも退職しなければなりません。老人でも個人の尊厳はあるのだから、老人の人が働ける場所をつくれればいいと思う。家族構成が核家族化している今、老人はじゃま者のようにあつかわれていますが、そうすればそういう老人も少しは減るんじゃないかなって思います。老人の人にも男女平等に職をあたえてあげれば高齢化社会になってもやっていけると思います。

3年7組 A. K.



社会科通信

なんでやねん

尼崎市立小園中学校 社会科担任 倉橋 忠



No. 7 - 3 / 4

私が高齢化社会について一番、気になるのは家に寝たきりの老人がいる場合、家族はいったいどうしているのだろうか。やはり、老人の面どうを見るのは女の人にまかせてしまいがちだと思う。すると、女の人、やりたい仕事ができず、個人の尊厳という権利がなくなってしまうような気がする。今は男女平等の世の中。だから、女の人だけが老人の面どうを見るのではなく、男の人でもできることはした方がよいと思う。それと、家族の助けも必要だと思う。このごろは1人暮らしの老人が多くなってきている。こういう老人のためにお世話してくれる人がもっともっと増えるといいなあと思う。だけど、けっこうきつい仕事やと思う。国は、こういった人たちに、もっと援助の手を差しのべるべきだと思う。私も社会人になったら積極的に福祉活動に参加したいです。

3年7組 M. O.

今、日本がかかえている高齢化社会の問題は私達が大人になるころには、かなり深刻なものになるといわれています。

ある家族がこの問題をかかえた場合、この家族がダメになってしまう恐れも十分にあると思います。なぜならば「男女平等」の考え方が定着していない日本ではこの問題は女性である妻にのしかかってくるからです。とくに男性は家族等の現実問題に背を向けがちで女性に重荷をせおわせてしまっています。こうなると女性の個人としての尊厳はまったく無視されてしまいます。現在の日本ではいろんな面において、男女平等に高齢化社会の問題を背負うのは難しいと思います。

しかし、だからこそ国は早急に他の先進国(特にスウェーデンetc)を手本とし社会福祉等のもので目指してほしいと思います。そうすることによって少しでも男女不平等などの問題が解決することをねがいたいと思います。

3年7組 E. K.

現代の家族は夫婦共働きでないと生活におわれるような状態で、日本経済が不景気になってきている今、将来の私達の生活は今より厳しい状態におかれると思う。高齢化社会は、核家族化が進む今の家族にとって重要な問題になり、将来はもっと老人がふえていくと思う。老人の扶養が思うようにいなくなり、世話ができないことで老人は生活に不安を感じ、生きがいのおき場がなくなる。かといって、男女平等を尊重する今、女性が家にとこって老人の世話をするというのもむずかしい。夫婦で働かなければ生活できないのもあるし、仕事に生きがいを感じる女性や社会参加への要望はとても高い。個人の尊重に基づき、1人1人の個性を發揮できる社会は今の社会では成り立たない。国はもっとこれを改善する必要がある。家族にゆとりを与え、1人1人が自分の個性を發揮でき、国民の生活を安定させなければならない。老人も安心して暮らせるような施設をつくるなど社会福祉にも、もっととりくむべきだと思う。

3年7組 Y. N.

「個人の尊厳＝個人の尊さ」という点では長生きするというのはとてもいいことだと思う。私だって、できれば長生きしたいから。でも、最近「高齢化社会」という言葉をよく耳にするようになった。「高齢化社会」というのは、総人口に対して高齢者の割合が増えること。だから、私達が大人になった頃にはもっとこの割合は増えていると思う。私は結婚したら専業主婦になって家の中のことをしたい。もし、自分の親が寝たきりになったら一日中面倒をみてあげたい。だけど、それを家事と両立するのはとても大変だと思う。今の日本の社会福祉では、いくら家族の協力があっても無理だと思う。現在では女性も男女平等に仕事を持つべきだと言われている。だけど、いざ老人の面倒を見るとなったら、必ず女の人が家庭の中へ追いこまれるでしょう。こんなの男女平等じゃない！ 男の人でも自分の親が倒れたならば、きちんと面倒見るべきだと思う。「高齢化社会」は近い将来、私達が必ずぶつかる問題です。その時、国はどう対応してくれるのか？今の時点では切り捨てにかかっているマイナスの状態です。少しずつでもいいから、未来のためにプラスの方向へ進んでいって欲しいと私は思う。

3年7組 N. M.

私たちが大人になる近い将来、若い人たちがへり老人が人口のたいはんをしめる高齢化社会がやってくると思います。しかし、今の日本の国は老人を受け入れる体制がととのっていません。例えば仕事面では定年退職した人たちにも何かできる仕事はあるはずなのだから何か仕事をあたえてあげればよいと思います。老人にとってももしかしたら仕事をあたえてもらえることによってそこに生きがいもあたえられるような気がする人もいます。仕事をあたえてあげる時、その時はちゃんと男性の老人だけではなくて女性の老人にもちゃんと仕事をあたえてあげるべきだと思います。それが本当の男女平等だと思います。

家族面では、家族構成が核家族化した今、老人をやしなうてあげるところはへってきているのが現実です。でも、いつか私達も老人になるんだと自分におきかえたとき、やっぱり今の老人の方たちのような生活はさみしいと思います。若い私だれもがみんな個人の尊厳をもう一度よく見つめなおし、老人になっても日本の社会をいっしょにきずきあげていけるような、そんな国、そんな社会になればよいと思います。

3年7組 S. M.

後30年後には、高齢者が4人に1人の割合になると新聞に書かれていた。しかし、このまま高齢化社会が進むと、今、高齢者を世話をしているのがほとんど女性ということで、女性の社会進出ができなくなってくると思う。このままでいくと、男女平等ではなく、女性の個人の尊厳が失われていくと思う。それに、共働きができなくなって、家族の中でお金の問題が経済的に無理になってくる。このようなことは、僕が支える方になっても、支えられる方になっても嫌だ。だから、このことについて、国が何らかの方法をとり、家族全員で、お金に困らないくらいの生活ができるようにしてほしい。会社ももっと、高齢者の働ける事を増やしてほしいと思う。

3年8組 M. S.

私の祖母は、今、老人性痴呆症になりつつあって、私は高齢化社会というものを、ごく身近に感じている。祖母は何度か入院をしたが、一緒に暮らしている伯母の「人間は家族の中で生活するもの、家族とかけはなれた病院で生活するのは人間らしくない」という考え方によって、退院し、また、父や伯父や祖父も祖母のためにつくしている。そのことは祖母の個人の尊厳を守ることに結びついていると思う。

でも、初体験のことなので父も母もとまどってばかり。高齢化社会が進む今こそ、それについて国が誰にでもわかるようなよいアドバイスを広めていくべきだと思う。介護についても、みんなでやっているし、そういうところをみると男女平等は自然に感じられる。また、私はそれについて夫は働いて妻が家事をするのは十分正しいと思う。これは私の考えだけど、子供を産んだ以上は、保育園など他人にまかせず、自分の手で育て、そして、夫が働いて養っていけばいいと思う。私はそういう家族がほしい。そして若いころに自分にあった仕事の免許をとって子どもが義務教育を終えるころ、それを生かし、その後もずっと自分の生きがいにし、老後を送りたいと思っている。

3年8組 K. U.

今高齢化社会で老人が増えているけど、老人は、収入が少なく、健康をそこねやすく、こ独になりやすいと思います。その問題は、個人の尊厳を守るためにもまず家族で解決しなければいけないけど、今、老人の世話などをしているのはほとんど妻でそのために働きたいと思っている妻の男女平等の権利が侵されていたり、老人の住みやすい環境を作るための資金での家計の圧迫が考えられるので、国が補助金や老齢年金の拡充とともに充実した施設を設けたり、仕事につく機会の保障などで老人に生きがいを与えるべきだと思います。

また、これから私たちは、国や家族にたよらず老後のための資金を自分でたくわえていかなければならないと思います。

3年9組 K. M.



社会科通信

なんでやねん

尼崎市立小園中学校 社会科担任 倉橋 忠



No. 7 - 4 / 4

いま日本は出産率の低下と死亡率の低下によって起こる高齢化社会が到来しています。それにともない家族の負担が大きくなり、家族だけでは負担しきれなくなっています。国によるさらなる福祉施設の充実とえんじょが必要だと思えます。また、要介護の老人の世話は圧倒的に女性が多く、しかも女性の高齢期の生活は男性と違い固定資産もなく、年金もわずかしか受領できません。このような不公平があり、男女平等が求められています。私達は、高齢者の生きがいや労働意欲を認識し、個人の尊厳が守られるようにしていかなければならないと思えます。

3年10組 T. I.

今日の日本は高齢化社会になってきています。そして国は、ねたきり老人は家族のあいでもっていけどいいですが、愛などでかいつできないことがあります。けっきょく女性が家の中で老人のめんどうを見なければなりません。それで男女平等といえるのでしょうか。そして、男の人が家に入り女性がはたらけば女性のきゅうりょうは男性の半分ぐらいいだといえます。それでは生活がくるしくなります。男女どちらかを家の中におしつけ老人のめんどうを見ることは個人の尊厳と言えるでしょうか。やはり、国がそういったしせつを作らなければいけません。自分たちで老人ホームに入れようとしたらばくだいなお金ですからむりです。やはり国にやってもらわなければなりません。

3年10組 M. F.

現在の老人は、大部分は苦しい生活を余儀なくされている。だからこれを解決するには、国が対策を練らなければならないと思う。例えば、老人ホームの増設、老人のいる家族への援助金等の対策がある。

高齢化社会のもう一つの課題は出生率の低下がある。これが理由として、男女平等による女性の社会進出により、男女共に仕事に追われ、育児にまで手がまわらない。だから独身の人が増えたり、結婚してもジャマになる子供を産まなくなったりしたのだと思う。

だから、国や会社が仕事と育児を両立できる労働条件を整えるべきだと思う。そうすれば、安心して働けるのではないだろうか。

そして何よりも大切な事は、各自一人一人が、個人の尊厳と言う事を念頭におき、老人一人一人を大切にし、なおかつできる限り協力する事だと思う。

3年10組 T. M.

これから未来に向かってどんどん高齢化社会になっていくけど、その中で今、妻(女)の老人の介護に比べて夫はかなり少ない。男女平等になってきている社会の中で国も介護のための休暇をもっと認めたほうがいいと思う。

でも6割近くの老人が家族の介護ではなくて家政婦やホームヘルパーなどの利用を考えているようだけど私は自分の親や夫の親は自分達で介護したい。というよりそういう責任があると思う。個人の尊厳に基づいて一人一人の命は尊いものという考え方に基づいて一人一人の老人に対して国や国民が真剣になって考える必要があると思う。

3年10組 N. O.

現在、高齢化社会になり老人もふえ寝たきり老人もふえたと思う。家で介護する場合、夫の介護休暇がほとんどない今、必然的に妻におしつけられると思う。そうなると妻は、したいこともできないので妻の個人の尊厳はなくなってしまふ。

家族で介護すればいいけど、夫が会社を休むとお金に困る。妻と交わいで働けばいいけど、男女平等といわれながら、まだまだ実現されていない今、給料だって少ないと思う。介護にもそれなりにお金がかかるし、子供もいて夫の給料で生活ぎりぎりだとしたら妻の給料では足りなくなる。だから国は、私たちが老人になっても家族にめいわくをかけないですむような福祉しせつをもっとたくさんつくるべきだ。会社のありかただって国がかえるべきだ。

3年10組 C. K.

これから、私が高齢化社会を生きていく中で、いつか親のめんどうをみななければならない時がくると思います。そしたら、仕事もできなくなるし、外にもあまりでかけられなくなります。今は男女平等なんだから、男ばかり働かないで、いっしょに協力してするべきです。協力すれば、私も働けるし、夫もそんなに働かなくてよくなるし、家族もずっとうまくいくと思います。

でも、今は帰るところのない老人がたくさんいます。そんな人たちの個人の尊厳を守るために、国にもっと高齢化社会について真剣に考えてほしいです。例えば、老人ホームに入るお金もない人のために無料で入れる老人ホームをつくるとかして、もっと老人の人たちがすみやすい国にしていけたらいいと思います。

3年10組 A. N.

現在、日本での高齢人口は総人口の10%をしめていて、40年後には、4人に1人は老人になる超高齢化社会が予想されています。それでは誰が老人のめんどうを見るのか。家の中のことは女の仕事だという偏見をすてて、男女平等でその問題に取り組む必要があると思います。男、女、老人のそれぞれの個人の尊厳を考えて、家族が1つになって老人の介護をする必要があると思います。そのためには老人のための労働、生活、健康を保障する必要があります。社会福祉制度を変えていく国の力が必要だと思えます。私たちも社会の一員として高齢化社会を真げんに考えていく義務があると思えます。

3年10組 M. F.

以上、紹介した「意見」(30人分)は、10点満点中で8点以上のうちの一部です。もちろん、7点以下のものでも、立派な内容の主張がたくさんありました(その全部を紹介できないのが残念ですが)。

クラスによって、この「社会科通信」に紹介されている「意見」の数にかなりの差があります。先生の感想では、授業中に活発な議論ができていたクラスほど、よく考えられた「意見」が出ているようです。ちなみに、紹介できなかった「意見」の中でも、授業中のクラスの友だちの意見を思い出して、その意見に反論していたものもありました。今後の授業中の活発な意見交換を期待したいと思います。

◎ 採点基準 (以下の各点について2点。ただし、それぞれが論理的に成立していること。)

- ① 高齢化社会の意味を説明できていること。
- ② 社会や家族内における男女平等の実現状況を具体的にとらえていること。
- ③ 社会や家族内における個人の尊厳(個人の幸せ・生きがいなど)の実現方法について具体的にとらえていること。
- ④ 高齢者およびその家族の生活を保障する責任は、国あるいは家族のどちらが(双方か)負うべきかについて、自分の考えを示していること。
- ⑤ ①から④までの点をふまえて、自分の将来の生き方(役割)を述べているか。